



(公財) 交通遺児育英会
石橋 健一 会長

いしばし・けんいち 1942年生。北大卒業後、日新製鋼（現日本製鉄）を経て96年、交通遺児育英会。専務理事、理事長等を経て2023年より現職。

年間交通事故死者数「50人以下」を掲げる岡山県。2023年には49人と目標を達成しましたが、昨年は60人と増加に転じ、人口10万人当たりでは3.25人と全国平均の2.14人を上回る水準にあります（警察庁調べ）。事故を防ぎ、交通遺児を一人でも減らすにはどうすればいいのか。交通遺児育英会の石橋健一会長と岡山県交通安全協会の末長範彦会長に、交通安全意識を高めるための取り組みなどについて聞きました。



(一財) 岡山県交通安全協会
末長 範彦 会長

すえなが・のりひこ 1946年生。トヨタ自動車販売（現トヨタ自動車）から岡山トヨペット社長などを経て、SUENAGA Group代表。2018年より現職。

特別対談

ハンドルの重みは命の重み

安全・快適なはずの車
凶器にさせぬよう

警察・行政の啓発活動を「草の根」でフォロー

—それぞれの団体が設立された経緯を。

石橋 当会の設立は1969（昭和44）年5月。高度成長期、モータリゼーション（車社会化）が進み、交通事故の被害者が急増した時期です。当時、全国で年間1万6千人を超える方が交通事故で亡くなり、遺族である子どもたちの母親から「せめて子どもを高校には行かせたい」と

—活動内容は。

石橋 大きく分けて5つあります。「奨学金の貸与（一部給付）」「修学支援金給付」「奨学生の指導と育成」「学生寮の運営」「交通安全の推

奨学金以外の支援は。石橋 コロナ禍への緊急支援として20、22年、5回に分けて一人最大60万円を給付しました。学費以外の奨学生の負担を減らすため、東京と関西に地方出身者向けの学生寮「心塾」を設けました。老朽化した東京寮は、より快適な学習環境を整備して昨春に建て替えを完了しました。また賃貸住宅利用者には月1万5千円の家賃補助があるほか、大学院、大学や専門学校の受験費用や自動車運転免許取得費の補助も用意しています。また、毎年開いている交通遺児家庭の交流の場「高校奨学生と保護者のつどい」の懇談会で寄せられた要望に応え、外国語検定試験費用の給付や、浪人生への進学支援金貸与も追加しました。今後も、臨機応変に拡充していきます。

—岡山県では23年、交通事故死者数が前年の74人から49人へ大幅に減りました。統計のある1948年以降、2番目に少ない数字です。何が影響したと考えますか。

末長 法整備や関係機関・団体の働きかけなどによる意識の高まり、また車にも、人間の認知能力を補助する先進技術が次々搭載されています。プラスアルファで、医療の充実や道路整備などが減少につながっているのだと思います。ですが、いまだに交通事故の要因は人間自身のミス。当協会も安全意識を高める活動をしていく必要があります。

—岡山には年間交通事故死者数「50人以下」の目標もあります。

石橋 県内の幼稚園や小学校に出向き、交通安全教室を行っています。模擬信号機や自転車を使って、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方を指導します。自分で危険を察知し、安全を確保することを子どもが意識付けられているといいです。

末長 県内の幼稚園や小学校に出向き、交通安全教室を行っています。模擬信号機や自転車を使って、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方を指導します。自分で危険を察知し、安全を確保することを子どもが意識付けられているといいです。

—岡山には年間交通事故死者数「50人以下」の目標もあります。

石橋 県内の幼稚園や小学校に出向き、交通安全教室を行っています。模擬信号機や自転車を使って、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方を指導します。自分で危険を察知し、安全を確保することを子どもが意識付けられているといいです。

末長 県内の幼稚園や小学校に出向き、交通安全教室を行っています。模擬信号機や自転車を使って、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方を指導します。自分で危険を察知し、安全を確保することを子どもが意識付けられているといいです。

石橋 県内の幼稚園や小学校に出向き、交通安全教室を行っています。模擬信号機や自転車を使って、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方を指導します。自分で危険を察知し、安全を確保することを子どもが意識付けられているといいです。

石橋 県内の幼稚園や小学校に出向き、交通安全教室を行っています。模擬信号機や自転車を使って、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方を指導します。自分で危険を察知し、安全を確保することを子どもが意識付けられているといいです。

—活動内容は。

石橋 大きく分けて5つあります。「奨学金の貸与（一部給付）」「修学支援金給付」「奨学生の指導と育成」「学生寮の運営」「交通安全の推

奨学金以外の支援は。石橋 コロナ禍への緊急支援として20、22年、5回に分けて一人最大60万円を給付しました。学費以外の奨学生の負担を減らすため、東京と関西に地方出身者向けの学生寮「心塾」を設けました。老朽化した東京寮は、より快適な学習環境を整備して昨春に建て替えを完了しました。また賃貸住宅利用者には月1万5千円の家賃補助があるほか、大学院、大学や専門学校の受験費用や自動車運転免許取得費の補助も用意しています。また、毎年開いている交通遺児家庭の交流の場「高校奨学生と保護者のつどい」の懇談会で寄せられた要望に応え、外国語検定試験費用の給付や、浪人生への進学支援金貸与も追加しました。今後も、臨機応変に拡充していきます。

—岡山県では23年、交通事故死者数が前年の74人から49人へ大幅に減りました。統計のある1948年以降、2番目に少ない数字です。何が影響したと考えますか。

末長 法整備や関係機関・団体の働きかけなどによる意識の高まり、また車にも、人間の認知能力を補助する先進技術が次々搭載されています。プラスアルファで、医療の充実や道路整備などが減少につながっているのだと思います。ですが、いまだに交通事故の要因は人間自身のミス。当協会も安全意識を高める活動をしていく必要があります。

—岡山には年間交通事故死者数「50人以下」の目標もあります。

石橋 県内の幼稚園や小学校に出向き、交通安全教室を行っています。模擬信号機や自転車を使って、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方を指導します。自分で危険を察知し、安全を確保することを子どもが意識付けられているといいです。

修学支援と返還負荷軽減 臨機応変に対応